



「Work smarter, not harder」

もっと頑張るのではなく、もっと賢く

アメリカでは「Work smarter, not harder」という言葉をよく耳にします。これは日本語にそのまま訳すと、文化的な理由もあってか、すんなり理解されないこともあります。日本では、大学入試が熾烈な時代に受験勉強を経験した方々は四当五落という言葉を知っていると思います。これは、試験に合格するためには睡眠時間を削って頑張れという意味だと聞きます。

一方、「Work smarter, not harder」はこれとは正反対に、最高のパフォーマンスを発揮するためにはただ頑張れば良いのではなく、賢く勉強することが重要であるという考え方です。実際、研究では6時間の睡眠時間を確保し、効率的に勉強することが重要であることが分かっています。「Work smarter, not harder」では結果を出すためにはむやみに労力を費やすのではなく、効率を重視すべきだということなのです。

試しにグーグルのオンライン翻訳で「Work smarter, not harder」を日本語訳してみると、「難なく終わらせた」と（誤って）訳してしまいます。面白いことに、これは日本語訳としては正しくないものの、ある意味、言葉のエッセンスをうまく捉えているように思われます。よりスマートに仕事ができれば、難なく終わらせることができるはずだからです。

この「Work smarter, not harder」という言葉は、結果を考えずに単に多くの努力をするのではなく、何をするにも効率と効果を重視することの大切さを伝えています。よりスマートに仕事をするので、より早く、より簡単に、そして自分自身のストレスや負担を軽減しながら目標を達成することができるのです。そのためには、自分のスキルやリソースを最も効果的かつ効率的に活用する方法を見つけることが重要です。

私たちは今、非常に多くのコンピューターツールを手に入れ、かつてない速さで物事を行うことができるようになりました。しかし、それらを最も効率的に使うには、定期的に継続して使用する必要があります。定期的に使わなければ、忘れてしまったり、ソフトウェアのアップデートによる変化に戸惑うなど、また使い方を学ばなければなりません。その意味で、スマートな働き方とは、「時間ができた時に集中して一気にやればいいや」ではなく、一度の分量は少ないように思える量でも、コンスタントに継続して積み重ねることなのです。日本のことわざにも「チリも積もれば山となる」というのがありますね。

~CONTENTS~

- P1. 「Work smarter, not harder」
もっと頑張るのではなく、もっと賢く
(e-キャンパスセンター長 外国語学部教授 ジョセフ・トウメイ)
- P2. PC教室授業アシスタント紹介
- P3. 遠隔授業への対応と対面授業でのICT活用
(外国語学部 講師 矢富 弘)
- P4. TOPICS～自習コーナーリニューアル～
- P5. e-キャンパスセンターカウンターサービス一覧
- P6. e-キャンパスセンター統計
- P7. e-キャンパスセンター更新の概略



e-キャンパスセンター長
外国語学部教授
ジョセフ・トウメイ
Tomei Joseph

今後、大学ではBYOD（Bring Your Own Device）を推奨していきます。これは、パソコンやタブレット端末、スマートフォンなどを授業で使用することを指します。欧米ではごく一般的になってきていますが、日本ではまだ始まったばかりです。大きなメリットは、自分たちが知っていて操作できるデバイスを使えば、より効率的に仕事ができることです。

このような端末やガジェットを活用した学習は従来のようなノートと鉛筆の勉強を否定するものではありません。まさに「スマートワーク」です。パソコンやタブレットの使い方を覚える、ショートカットを設定する、パスワードを整理する、こういったことは、早めにとっておくことで毎日の作業が少なくて済みます。さら割くに人力では時間がかかっていた作業が高速で済ませられるようになり、その分の「時間」と「体力」をより大事な研究上の思索や創造的な活動に割くことができるようになります。

コロナウィルスのパンデミックにより、私たちの社会は様々な面で変化を迫られました。IT関連の充実や社会的浸透は「Work smarter, not harder」の視点で見ると、プラスの変化として捉えられる側面だと私は考えています。学習や研究の方法の多様化が受け入れられる基盤ができたのではと感じるからです。

PC教室授業 アシスタント 紹介

e-キャンパスセンターでは
授業アシスタントを
募集しています♪
現役授業アシスタントの声を
聞いて一緒に働いて
みませんか？

藤岡大貴/経済学部3年

受講生の方々の疑問と一緒に向き合う事で得られたスキルは数え切れないほど多いです。元々PCは得意でしたが、アシスタントの仕事をはじめたことで更にスキルを磨くことができたと思っています。常に成長を与えてくれるこの仕事は、今では私の楽しみの一つです。



緒方樹/商学部2年

私は、PCを使った作業が好きだったので、自分の知識を役立てたいと思い応募しました。教えることは初めてで慣れていなかったのですが、先輩や職員の方が業務のことや知らなかったPCの機能などを教えてくださったので、自分も学びながら楽しく働くことができました。興味のある方はぜひ応募してください！

米村拓巳/経済学部4年

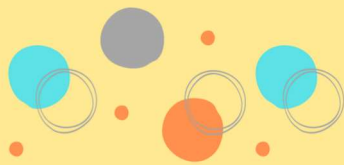
サークル活動でOffice系ソフトの使い方を人に説明することがあったので、もっと使い方を分かり易く説明できるようになりたいと思い応募したことがきっかけです。受講生が教えたことをできるようになった時は自分の仕事が役に立ったのだと感じ嬉しく思いました。PCスキルや説明能力を高めたい人にオススメです！



遠隔授業への対応と対面授業でのICT活用



外国語学部 講師
矢富 弘
Yadomi Hiroshi



コロナウィルスの感染拡大により、2020年度の春から遠隔授業を余儀なくされた。Zoomやオンデマンド動画などで、オンライン学習のシステムを構築して授業の進め方を工夫する必要が出てきた。私の方針としては、当初より授業のリズムを保つために、基本的にZoomでのリアルタイム授業を実施し、さらに部分的にオンデマンド動画などで補った。授業をこなしながら、毎週数本の動画を撮影、編集、アップロードをするなどYouTuberさながらの生活が続いた。授業準備をこなすのに必死であったが、一方でオンライン授業の教材やノウハウは今後の財産になると考えていた。コミュニケーションのあり方が大きく変わる時代の潮流は、感染流行が収束しようとも逆行しないだろうという確信めいたものがあった。同時に、自分自身を含め教育現場も新しい方法を取り入れる必要があり、さらに学生にも指導しなくてはならないという使命感のようなものを感じた。

学生に関して言うと、Zoomなどの遠隔会議ツールは就職活動やオンラインイベントの参加にも必須になっている。これらのテクノロジーを使いこなせないと、大きなディスアドバンテージになると考え、遠隔授業の初期から、学生に基本的な使い方を徹底的に指導した。物事には表裏があるが、ポジティブな面もある。九州の大学に在籍する学生でも、関東や関西の企業への就職活動が部分的に遠隔になることで、参加できる可能性が高まり、選択肢が広がった部分もある。

もちろん、対面も遠隔も一長一短である。今後は、それぞれの良いところを活かして使い分けていくべきだ。現在では、私が担当する授業も全て対面授業が可能になった。そこで、遠隔授業の資料やノウハウをどのように対面授業でも活用するかを考えてきた。

まず、オンデマンド動画に関してYouTube上に残し、授業を欠席した際や、復習をしたい場合に学生が閲覧できるように工夫した。あくまで、対面の講義が授業の中心ではあるが、様々な理由で出席できなかった際のフォローとして、学生からの評判は良い。さらに、ZoomでiPadの画面を共有し、スライドやテキストに書き込みながら説明するスタイルは理解しやすいと好評で、さらに効率的でもあるので、教室でも利用できるように環境を整えた。Apple TVを用いることで、手元のiPadからコードレスで出力してスライドや動画を映し出すことができ、より自由に教室での授業を進めることができている。

社会全体のICT化が進んでいる昨今、教育現場でのICTの活用も進めていく必要がある。もちろん、全てにおいてICT化すべきということではなく、有用な部分は活用し、物理的に残した方が良い部分は残すべきだが、その取舍選択のためにも、どのようなオプションがあるのか学ぶべきである。コロナウィルスの感染拡大により、もちろん負の側面が大きいですが、どのような状況でも、ポジティブに捉え、試行錯誤を通して成長の機会を探っていくことが必要だと改めて感じた。

※Apple TV (アップル ティーヴィー) について
Appleが開発・販売するセットトップボックスである。2006年9月12日にコードネーム「iTV」(アイティヴィー)として発表された。家庭内でビデオ・コンテンツをiTunesからテレビへ無線LANあるいは有線LANを通して配信することができる他、YouTubeの映像も見ることができる。また、2008年1月15日より、iTunes Storeから直接コンテンツを購入したり、映画のレンタルもできるようになった。
引用：Wikipedia

～ 矢富 弘 講師紹介 ～

専門は英語史、社会言語学、文献学で、初期近代英語における文法変化、とりわけ助動詞のdoの発達や三人称単数語尾の-thから-sへの変遷、二人称単数代名詞thouの衰退などです。遠隔授業をはじめ最近ではオンラインで活動することが多くなってきたため、その中心的な場としてホームページを作成されています。詳しくは矢富 弘 講師HPをご覧ください。

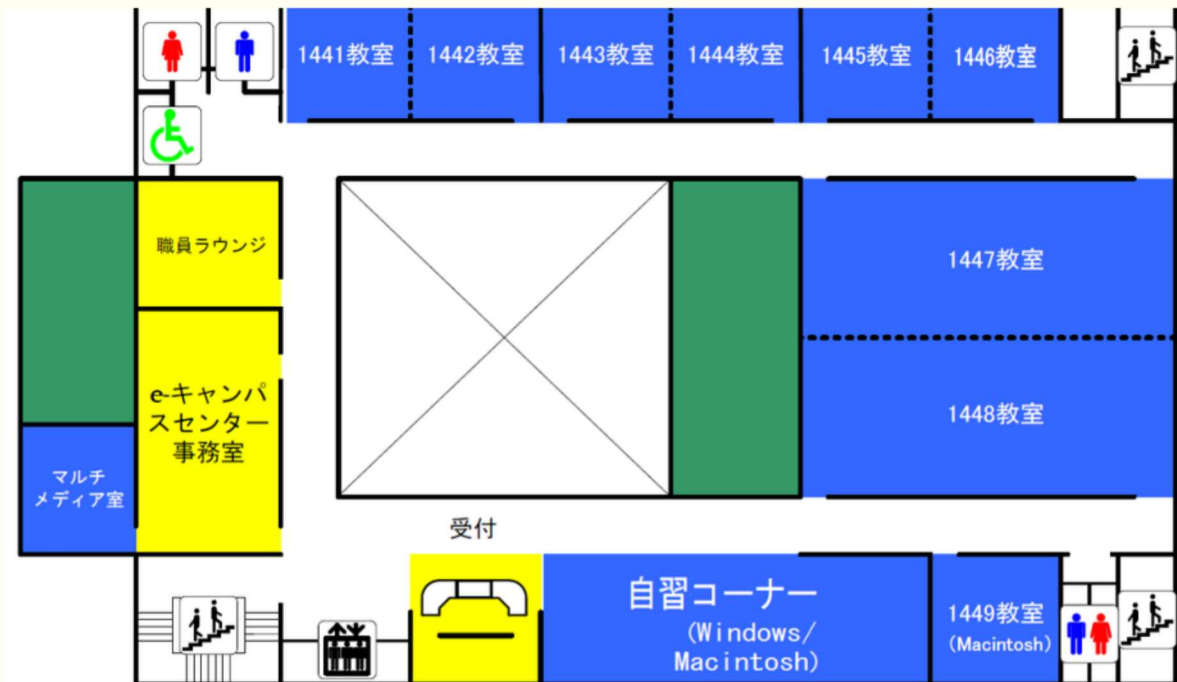


矢富 弘 講師
HPはこちら→



TOPICS

14号館4Fパソコン教室配置図



自習コーナーリニューアル!

自習コーナーのFREESPACEをリニューアルしました。
ソファ席でタブレットやノートパソコンを膝にのせて
リフレッシュ・シンキングにどうぞ。
また、窓に向けたハイカウンター席もあります。
風景を見ながら作業をしてみるのも、気分転換になりますよ。
自習コーナーにはPCヘルプデスクがあり、パソコン操作に困った時はサポートします。
受付カウンターではノートパソコンの貸出も行っています。



e-キャンパスセンター Twitter →



e-キャンパスセンター カウンターサービス一覧

e-キャンパスセンターカウンターでは、様々なサービスを行っています。
主に利用できるサービスを簡単にご紹介します！

ノートパソコン貸出

全学部生(大学院生除く)向けに、ノートパソコンの貸出をしています。貸出期間は1回につき1週間です。貸出・返却の際には学生証が必要になります。また、学生証を忘れた場合には貸出返却ができませんので注意して下さい！返却を延滞するとペナルティがあります！



ヘルプデスク

自習コーナーを利用して困ったことはありませんか？e-キャンパスセンターのカウンター横にヘルプデスクを設置しています。PC操作方法や※[manaba](#)に関する事等お気軽にお尋ね下さい。成績に関わる質問にはお答えできません。
※本学の学習支援システムです。



パスワード再発行

もしも、個人アカウントのパスワードを忘れた場合は、e-キャンパスセンターでパスワードの初期化を行い、登録し直すことができます。ですが、パスワードは忘れない事が一番です！再発行は学生証が必要です！



備品貸出

カウンターでは備品を貸し出しています。課題提出時に使用するスキャナーや、遠隔授業時に使用するヘッドフォン等の貸出を行っていますので、スタッフに声掛けください。また、貸出の際に必要な事項を記入して貰います。

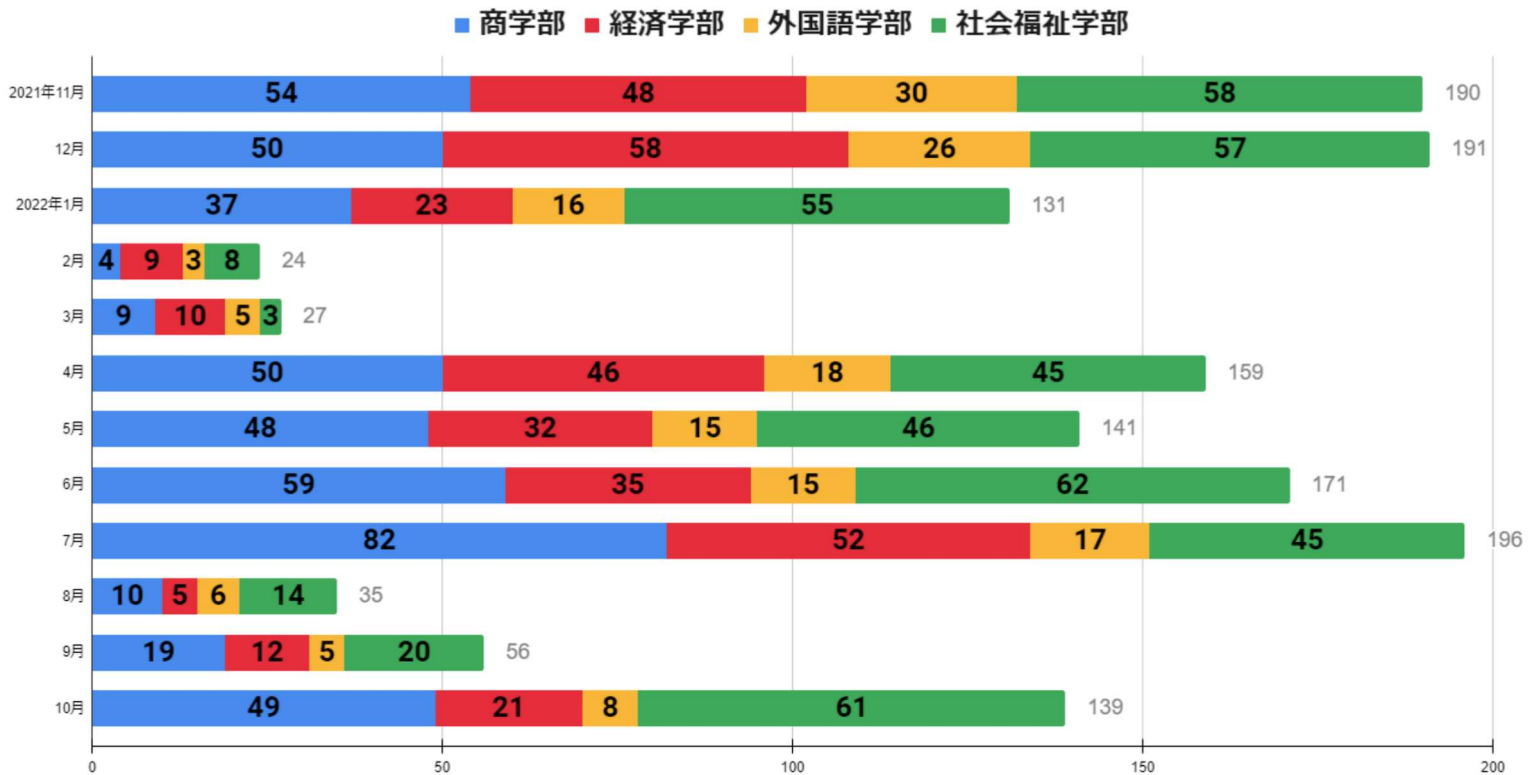


e-キャンパスセンター統計

(2021年11月～2022年11月のノートPC貸出数)

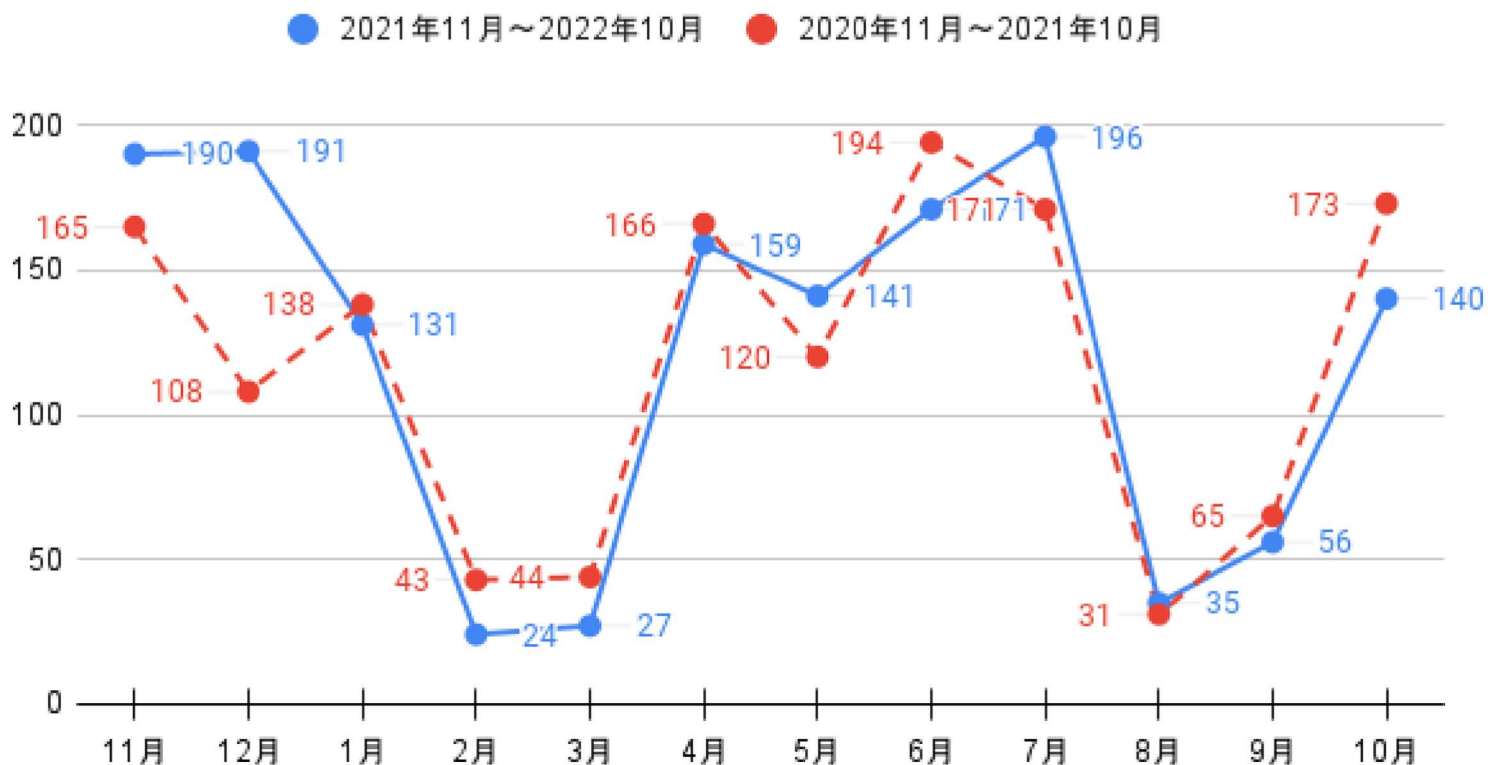
ノートPC学部別貸出利用者数

(実人数)



ノートPC貸出回数比較

(のべ数)



e-キャンパスセンター更新の概略

e-キャンパスセンターは、パソコンを使用する授業の支援を目的に設置されています。1970年度に開設された電子計算機室を初めとして、2007年度に旧1号館より14号館4階へ移設された際にe-キャンパスセンターへ改称しました。現在は約400台の授業用デスクトップパソコン、80台の貸出用ノートパソコンの維持・管理を行っています。パソコンや授業機材の授業や自習利用への有効利用を図り、快適なネットワーク環境の提供を模索しています。本記事では、e-キャンパスセンターの施設紹介の一環として、直近5年の比較的大きな更新事業と今後の更新計画を一覧にまとめました。

年度	ネットワーク関係	パソコン室関係
1970	電子計算機室として開設	
～	省略	
2007	旧1号館より14号館へ移設	
～	省略	
2018	学外とのインターネット接続経路を旧1号館より14号館へ移設	貸出ノートパソコンの更新（Panasonic製Let'sNote）
2019	14号館4階PC教室LAN配線の二重化および無線LANアクセスポイントを追加	1447・1448PC教室パソコン更新（省スペースモデル）
2020	大学コアスイッチおよび14号館棟スイッチ更新	1441-1446PC教室パソコン更新（省スペースモデル）
		自習コーナー模様替え
2021		1449PC教室パソコン更新（iMac）
		自習コーナー模様替え
2022		1447・1448PC教室授業支援ソフト（e-Watcher）導入
2023		1447・1448PC教室モニター更新予定
2024		1441～1446PC教室モニター更新予定

e-キャンパスセンター
HPはこちら→

